

「カップルが走って日本縦断 震災復興支援！」は、鈴木健司と山田安希子の2人が日本を縦断するプロジェクト。6月19日、縦断達成しましたが、震災復興を支援する活動を続けています。

## J-WAVE インタビュー再録

8月4日、首都圏のFMラジオ局、J-WAVEの番組「JAM THE WORLD」の「HEART TO HEART」というコーナーに、電話で出演。インタビュアーは、番組パーソナリティの野中秀紀さん。

### 1. 「日本縦断」について

野中：マラソンで日本を縦断されたそうですが、これはどんなプロジェクトなんですか？

鈴木：僕は元々音楽をやって、震災直後はチャリティをやっていたのですが、やっぱりどうしても記憶が風化していく中で、個人的に忘れないようにする活動って何かないかなと思っていた時に、ちょっと走って見たんです。そうしたら、知り合いから100キロマラソンへの挑戦を誘われて。そういうのに挑戦していく中で、周りの人の応援で自分が一歩一歩克服していく、ということが、震災の復興にちょっと重なるものがあると感じました。

僕も「頑張れ、頑張れ」という人の声援の中で、苦しいけれども前に進めたんです。だから、被災地の方に「頑張れ」という僕の応援メッセージを伝えたい、と思って走ったんです。

野中：実際にどこからどこまで走られたんですか？

鈴木：日本の最南端と最北端というのがありまして、スタートは、最南端、沖縄の波照間島。そこをスタートして、いちばん北は北海道の宗谷岬です。これが、3051.9キロでした。

野中：3051.9キロ！すごい距離ですが、どれくらいの日数で走られたんですか？

鈴木：走ったのは111日ですね。

野中：これは連続して111日？

鈴木：そうです、一気に。

野中：はあーっ。(感嘆) そもそも何で南の端から北の端まで走ろうと思われたんですか？

鈴木：マラソンは別に趣味ではなかったんですよ。走るのも得意じゃなかったんですけども。

野中：あっ、そうなんですか！

鈴木：たまたま知り合いに誘われて100キロマラソンというのを走った時に、「走れちゃった」んですよ。そしたら、次に比較するものかわからなくて、とりあえず、ノリで、「日本縦断かな」って最初は言ってたんです。

極端な性格なもので。じゃあ南から北まで行っちゃおうと。

野中：(笑)

鈴木：それで、みんなに言ったら、いろんな人がたくさん応援してくれるようになって。でも、これを自分だけのものじゃなくて、このエネルギーを何かに変えたいと思った時に、被災地の方を応援するプロジェクトとして、義援金を集めさせてもらいながら、直接自分の足で被災地に届ける、っていう方向に変えていったんですね。

### 2. 被災地で感じたこと

野中：縦断マラソンされている最中に、被災地も通過されたわけですよね？ その時にはどんなことを感じましたか？

鈴木：最初は、こういう活動ってどう思われるのかなあ、っていう不安があったんです。何か冷やかしてるんじゃないか、みたいな感じで。でも実際に、石巻に入る時に、僕は大きな旗を持って走ってたんですけど、そしたら、90歳くらいのおばあちゃんが前から歩いてきて、僕らを見て「ありがとう」って言ってくれたんですよ。「こういう活動で、私たちのことを忘れないでいてくれてありがとう」って。それにすごく感動しちゃって。ああやってよかったなあと思えたんです。それでもっと頑張ろうって思って、被災地みんなへ「頑張れ頑張れ」というのを届けさせてもらいました。

野中：縦断中には募金も集められたんですよね？

鈴木：はい、そうですね。もう結構な金額をいただいて。

野中：実際にそれを被災地に届けられたんでしょうけれども。

鈴木：はい、タイトルに「カップルが」とあるように最初は僕が走って彼女が自転車ですずと併走してくれてたんですよ。それで、彼女が日本にいないもので、自分のスケジュールで海外へ帰ったんですけど、その自転車が、岩手の釜石に置いてあったんです。そこまでは一緒に走れたので。僕はゴールしたあと、いったん釜石までは公共交通機関で帰ってきて、そこから彼女の自転車まで、お世話になったところを通って、地元まで帰ってきました。

そのルートの中で自転車で寄って、活動している人とかにつなげたので、そこで預けたりしながら…。

いちばん最初は気仙沼市の市長さんに直接お渡しさせていただきました。石巻では、子供たちのためにサッカーボールとか寄付している人たちに預けさせてもらったり。

野中：まさに「地に足がついた活動」ですね。

鈴木：やっぱり、これかなと思ったんですね。コンビニエンスストアにある募金箱に入れたとしても、どうやって使われるのかなあとか、入れる側の気持ちが直接被災地の方に届く、ってことは難しいので…。直接、足で走って、というのは、ちょっと奇抜なんですけど、ホントに人のためになっただけかなという感じはありますね。

### 3. 今後の活動

野中：このプロジェクト自体は完了しているんですよね？

鈴木：一応、「走った」のは終わってるんですけど、

野中：今後はどうするの？

鈴木：東北でお世話になった方々から、8月のお祭りに何ヶ所か呼ばれているんですよ。そして今度は行って、ライブをさせてもらって、まだ募金を集めたものがあるので、それを被災地の方に届けます。大事なことは継続することなんです。これがきっかけで、僕はたくさんの人に会えたので、やっぱりこれは、音楽も作ってるし、そういう曲を作ったりとか、お金の方でもいろんな方法で支援できると思うので、それはやっぱりまた僕が軸になって、続けていきたいですね。

野中：わかりました。そうした鈴木さんの活動を少しでも応援できるように、あるいは、またご縁も広がっていくように、この番組のホームページからも、リンクを張らせていただきますので。

鈴木：ありがとうございます、ぜひ、よろしくお願いします。

野中：頑張ってください。お身体を大事にして。

鈴木：はい、ありがとうございます。